一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

2021 年 5 月 10 日
一般社団法人　九州経済連合会

「九州将来ビジョン 2030」を策定しました

－共生・共感・共創アイランド九州～成長と心の豊かさをともに～－

九経連は、2021 年 4 月に創立 60 周年を迎えました。

この大きな節目の年に、2030 年の九州のありたい姿を描き、その実現へのアクションプランを示す「九州将来ビジョン 2030」を取りまとめました。

ビジョンのコンセプトは『共生・共感・共創アイランド九州～成長と心の豊かさをともに～』です。「新たな時代の成長エンジン」「心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ」「自立型広域連携アイランド」の３つのありたい姿を軸に、SDGs の理念の下、新たな価値創出を促す「10 の課題」を掲げました。

九経連では、産学官の関係機関や地域の皆さまとの連携を深めながら、共生と共感によって、成長と心の豊かさが相互に好影響を与え合い、新たな価値を共創する持続可能な地域を目指します。

私どもは、このビジョンの実現に向けて、今後３年ごとの中期事業計画と KPI を定め、具体的な行動と実績を示してまいります。

報道関係者の皆さまにおかれましては、ぜひ同ビジョンについて、機会を捉えてご発信頂けると幸いです。

また、本ビジョンは弊会 HP 上での電子パンフレットとして公開（6 月上旬掲載予定）いたします。添付の資料は、プレスリリース用に弊会で印刷したものですのでご了承下さい。

＜本件に関するお問い合わせ先＞　地域政策部　濵口、伊豫田（いよた）（092-791-4268）

九州将来ビジョン2030

共生・共感・共創
アイランド九州

～成長と心の豊かさをともに～



一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

九州将来
ビジョン
2030

共生・共感・共創
アイランド九州

～成長と心の豊かさをともに～

日本の経済的地位が下がっています。そして、一億総評論家と化して評論や批判に終始し、危機感なきジリ貧の中から脱せられないという現実です。「2020年頃のリーダーは何をしていたのか」との誹りを受けることがないよう、将来を見据える視点と、ありたい姿を達成するための具体的な行動を起こしていくことが大事だと考えています。

2021年4月、九経連は創立60周年を迎えました。この大きな節目の年に、2030年のありたい姿を描き、その実現へのアクションプランを示す「九州将来ビジョン」をとりまとめました。『共生・共感・共創アイランド九州～成長と心の豊かさをともに』がビジョンのコンセプトです。「新たな時代の成長エンジン」「心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ」「自立型広域連携アイランド」の3つのありたい姿を軸に、SDGsの理念の下、新たな価値創出を促す「10の課題」を掲げています。

経済成長の目標を定め、競争力を追求していくことはもちろん大切ですが、純粋に「九州に住んでいる人って幸せそうだな」と思ってもらえるコミュニティを育み、豊かな社会生活を実現していくことも、これから地域に人を呼び込んでいく上では重要になると考えています。

人生100年時代、「生涯学習」「生涯現役」「生涯収入」の3つのテーマを持って健康寿命を伸ばしていく。70代になっても、職場や地域コミュニティなどから声が掛かり、現役を続けることで、毎日の張りもあり、収入もある人生を送ることができます。

今後は、未来を創るビジョンとするため、3年ごとの中期計画とKPIを定め、具体的な行動と実績を示してまいります。

九州の恵まれた環境・好条件を活かし、新しい動き、良い成功事例をつくって、他の地域、他の産業でも導入されていく流れをつくる。日本の競争力復活を目指す経済人の一人として、九経連のミッション「九州から日本を動かす」の実行、実現につなげていきます。

幸い、九州には「まとまりのよさ」という強みがあります。産学官民がワンチームとなって、後に「あの時から潮目が変わった」と評価されるような動きを起こしていければと思っています。

皆さんの企業、学校、地域が競争力や魅力を高め、それぞれの立場から、次世代が明るい可能性を感じるビジョンを持ち、発信していただきたいと思っています。コロナ禍で鮮明になったローカルアドバンテージを引き出す戦略として、或いは将来像を描く上での議論の素材として、本ビジョンをご活用いただければ幸いです。

2021年5月

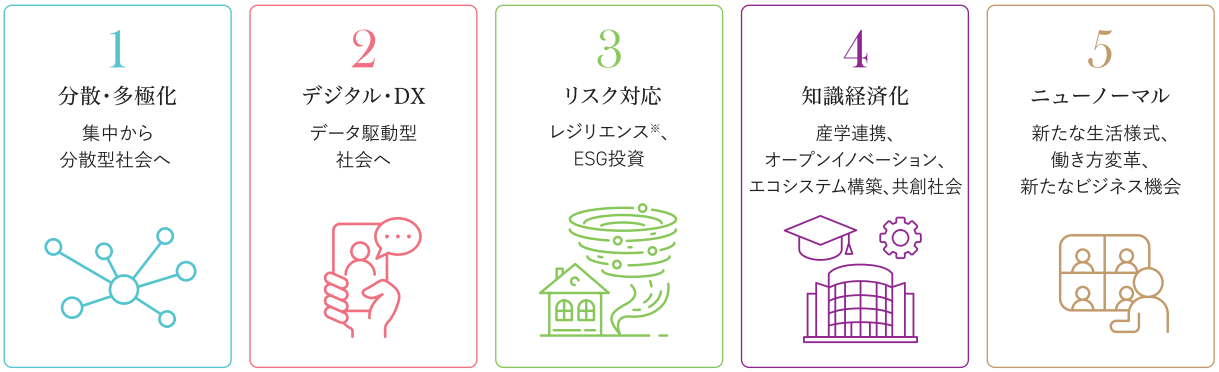


一般社団法人九州経済連合会
会長
麻生泰

九州の現状

九州は現在、人口減少と高齢化、産業構造の大きな変化、豪雨災害や感染症など多くの脅威にさらされている。また、全国水準を下回る労働生産性や社会全体のダイバーシティに対する意識の乏しさ、デジタル対応の遅れなどの弱みもあり、これらを克服し、SDGsの理念のもと持続的に成長し豊かで幸せな地域を築いていくためには、九州のポテンシャルを活かして、大きな時代の潮流を捉え、変化をチャンスに変えなければいけない。

捉えなければならない時代の潮流



※レジリエンス：しなやかに適応して生き延びる力（回復力・弾力）

九州のポテンシャル

九州は、先進国一カ国に匹敵する人口と経済規模（GDP56兆円 2018年）を持ち、県庁所在地を中心に域内各地に中核市が配置されてバランスが良く、域内流動性が高い地域である。また、今後も長期にわたって成長が見込まれるアジア諸地域に近い地理的優位性やそれらの地域との緊密な関係を保有している。さらに、再生可能エネルギーなどゼロエミッション電源の導入も他地域に比べ進んでいる。産業面においては、従来から地域の経済をけん引してきた自動車や半導体などのものづくり産業に加え、他のエリアよりも規模の大きい農林水産業や豊富な観光資源を活かしたサービス産業などの成長が期待できる。さらに、幸福度指標の高い地域でもあることから、仕事の充実と幸せな暮らしをともに実現できる魅力ある地域といえる。

2030年へのアクション

めまぐるしい環境変化に対し、多様な人々が、九州のポテンシャルを活かし、地域経済を活性化させるとともに、暮らしやすさを向上させて地域の魅力を高め（共生）、様々な人から選ばれる地域（共感）を目指したい。これにより、多様な人材がイノベーションを起こすことで新たな価値が生まれ（共創）、地域の魅力が高まり、さらに人が集まって経済成長を加速させる好循環モデルの確立を目指していく。

2021年以降九経連は、2030年のありたい姿およびその実現に向けた課題を踏まえ、取り組むべき重点施策をアクションプランに落とし込み、産学官民の連携を促進しながら、私たちのミッション「九州から日本を動かす」気概のもと活動を展開していく。

九州
将来ビジョン
2030

共生・共感・共創
アイランド九州

～成長と心の豊かさをともに～

ありたい姿

Ⅰ 新たな時代の成長エンジン

～「九州から日本を動かす」気概と情熱で地域経済社会の先進モデルを確立～

取り巻く環境が大きく変わる中、九州はその強みを活かして所得の向上と雇用拡大を図り、全国水準を上回るGDPを実現し、アジア諸地域をはじめ世界に対して競争力を高めながら豊かな社会の実現に寄与する新時代の地域経済社会の先進モデルを確立し、持続可能な成長を続ける。

Ⅱ 心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ

～多様な人材を活かし、新たな価値創出を促す～

ますます加速する少子高齢化やグローバル化する社会において、多様な人々が幸せを感じながら活躍できる持続可能な環境を創ることは必要不可欠である。SDGsの理念のもと、九州に集う人々の多様性と包摂性をQOLの向上によって拡充して、人とのつながりの中で社会的課題を解決できる「選ばれる九州」を実現し、新たな価値の創出を促す。

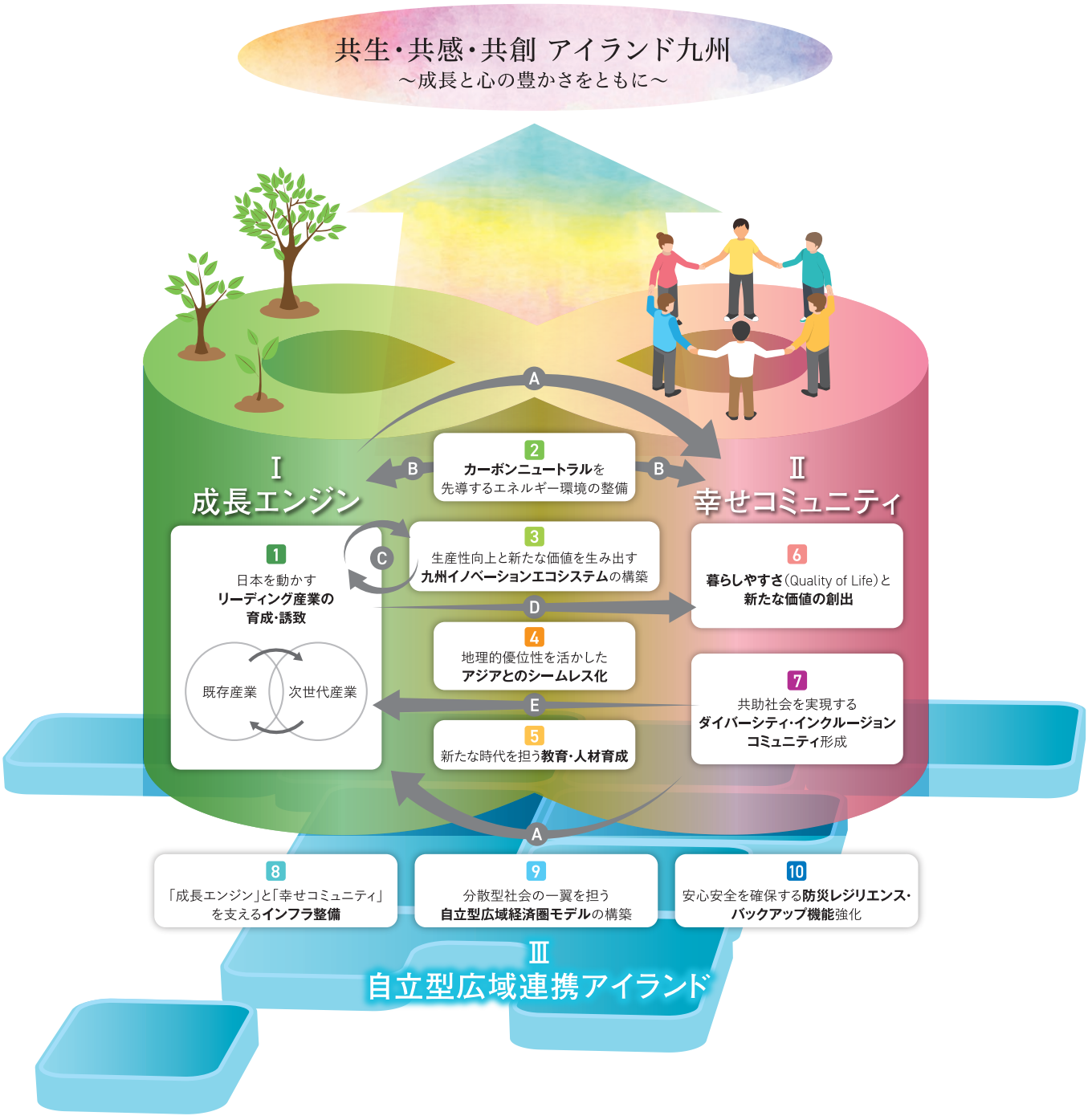
Ⅲ 自立型広域連携アイランド

～九州のポテンシャルを活かし、強固な連携で成長と心の豊かさを支える～

先進国一カ国に匹敵する人口と経済規模をもつ九州は、地理的条件に恵まれ、他地域と比べ県境を越えて連携力が高い地域である。このような強みをさらに伸ばすために、国とも連携しながら広域的な産学官民一体の体制構築やインフラ整備を行い、九州の自立的運営やエリア内コミュニティの連携を促進し、成長と心の豊かさおよび住民の安心・安全の実現を支える。

実現に向けて取り組むべき10の課題とその関係図（イメージ）

共生と共感によって、成長と心の豊かさが相互に好影響を与え合い、新たな価値を共創する持続可能な地域を目指す



矢印が示す関係性

Ⅰ ←A→ Ⅱ	成長エンジンとして九州の経済を活性化し、暮らしやすさなど地域の魅力を高め、多様な人々が集まり活躍することでさらなる地域経済の活性化につなげる好循環を創り出す
2 →B→ Ⅰ Ⅱ	ゼロエミッションエネルギーの環境を整備することで持続的な産業の成長やあらゆる人々の幸せな暮らしを支える
1 ←C→ 3	未来を担うリーディング産業の育成・誘致によって新たな技術やイノベーションが生まれるエコシステムの構築につなげ、さらに、エコシステムによって新たな産業が生み出される好循環を創り出す
1 →D→ 6	未来を担うリーディング産業の育成・誘致で生まれたスマートシティなどの新たな技術を活かしQOL向上につなげる
7 →E→ 1	共助社会を実現するダイバーシティ・インクルージョンコミュニティ形成により、多様な人々が活躍することで産業の活性化につなげる

「九州将来ビジョン2030」実現に向けた

10の課題と具体的活動

課題 1



日本を動かすリーディング産業の育成・誘致

Ⅰ

将来の九州経済を活性化し、GDPの引き上げや所得水準の向上、さらに雇用拡大を図るため、九州の優位性ある資源やデジタル技術を活かして新たな基幹産業を創出する。

具体的活動
1 九州の強みを活かした農林水産業・観光産業の活性化
2 次世代リーディング産業誘致・産業活性化（航空・宇宙、バイオ、医療・医薬、素材、エネルギー等）
3 “グローカル”産業の育成（ローカル産業のグローバル化）
4 DXによる産業構造の新構築・最適化（フィジカル＆サイバー2階建て産業構造の構築）
5 産業の価値創出・生産性向上（生産性革命）

課題 2



カーボンニュートラルを先導するエネルギー環境の整備

Ⅰ Ⅱ Ⅲ

持続可能な世界屈指のクリーンエネルギー九州を実現するため、再生可能エネルギーの有効活用やそれに資する資金調達などの体制を整備し需要側を含めた環境先進モデルを構築して経済成長に寄与する。

具体的活動
6 水素、電化、メタネーションガス社会への転換
7 エネルギーの「3E+S」※を前提としたエネルギーミックス（再エネの主力電源化・原子力の着実な運用）の追求
8 脱炭素社会の実現に向けた革新的技術の開発・導入活用
9 分散型エネルギー需給モデルの構築
10 ESG投資・グリーン調達の拡大に向けた環境整備

※3E+S：エネルギー自給率、経済効率性、環境適合、安全性

課題 3



生産性向上と新たな価値を生み出す九州イノベーションエコシステムの構築

Ⅰ Ⅱ

絶え間なくイノベーションを生み出し、持続的な産業の活性化を図るため、事業会社とベンチャーによる価値共創、産学の融合等により、域内で自律的かつ連続的にイノベーションが生み出されるシステムを構築する。

具体的活動
11 持続的な産業活性化に向けた産学連携
12 企業内ベンチャー・企業間連携イノベーションの創出を促す環境の整備
13 エコシステムの中核となる企業・産業・研究所・大学の集積

課題 4



地理的優位性を活かしたアジアとのシームレス化

Ⅰ Ⅱ

日本の中でアジア諸地域に最も近い九州がビジネスの最適地として世界から選ばれるため、海外とのヒト・モノ・カネ・情報の往来を活発化させるべく、魅力的な国際ビジネス環境の整備に取り組む。

具体的活動
14 アジア市場と自由にモノの往来が出来るサプライチェーン構築
15 魅力ある投資環境の整備（国際金融センターや外国企業の日本ブランチ誘致等）
16 アジア・世界とつながるデジタル環境の整備

課題 5



新たな時代を担う教育・人材育成

Ⅰ Ⅱ

デジタル化やグローバル化が加速する中で、IT人材、グローバル人材を確保するため、国際競争力ある人材育成メニューの充実や、その人材を受け止める組織インフラ・制度の整備に取り組む。

具体的活動
17 世界中の優秀な人材の集積地化に向けた教育機関の整備
18 次世代や世界で通用する人材を育てる教育プログラムの構築
（グローバル・STEAM・ICT・社会課題解決などの人材育成、リカレント教育推進）
19 多様な人材の成長を促す人材流動化

ありたい姿

Ⅰ … 新たな時代の成長エンジン

Ⅱ … 心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ

Ⅲ … 自立型広域連携アイランド

課題 6



暮らしやすさ（Quality of Life）と新たな価値の創出 Ⅰ Ⅱ

地域の資産（自然や文化など）の恩恵を享受しつつ、イノベーションによって各人が求める働き方や生き方が実現できる地域モデルを創る。

具体的活動
- 20 医療及び福祉環境の充実（ヘルステック推進等）
- 21 MaaSによる地域交通網の最適化
- 22 自然環境・文化・歴史的価値向上と伝統継承
- 23 デジタルを活用した働き方のニューノーマル化（リモートワーク、コワーキング、ワーケーション）

課題 7



共助社会を実現するダイバーシティ・インクルージョンコミュニティ形成 Ⅱ

誰もが属性に捉われずチャレンジして活躍できる社会を目指し、多様な価値観を認め、各人の強みを活かし共助共生しながらともに成長できるコミュニティを形成する。

具体的活動
- 24 誰もが可能性を最大限発揮できる風土醸成と社会システムの構築（ダイバーシティ経営の推進、次世代層・女性のエンパワーメント等）
- 25 あらゆる人々の多様性が受容される基礎インフラの整備
- 26 社会的課題を地域のつながりで解決する（共助）コミュニティの構築
- 27 外国人との共生に向けたグローバライズ

課題 8



「成長エンジン」と「幸せコミュニティ」を支えるインフラ整備 Ⅲ

バランス良く配置された九州の各都市の経済・生活機能が効率的かつ最大限に発揮できるよう、地域間連携に資するICT基盤や産学官民連携したデータ流通の促進および交通インフラの整備に取り組む。

具体的活動
- 28 データ駆動型社会の基盤整備
- 29 域内港湾の一括管理による運営効率化
- 30 九州一体となった空港施策の実現を可能にするためのプラットフォームの設置と国際金融都市に相応しい国際路線の充実
- 31 高規格幹線道路網の整備促進と下関北九州道路の事業化

課題 9



分散型社会の一翼を担う自立型広域経済圏モデルの構築 Ⅲ

人口減少、高齢化が加速している中でも地域経済・コミュニティを維持できるよう、強みである広域連携力を活かして、9県が自立しつつも一体となって地域活性化に取り組む連携モデルを構築する。

具体的活動
- 32 分散型社会の実現に不可欠な広域行政の枠組み構築
- 33 各地域の強みを活かした多様なビジネス環境の整備

課題 10



安心安全を確保する防災レジリエンス・バックアップ機能強化 Ⅲ

異常気象や巨大地震発生などのリスクが年々高まる中、住民が安心して生活できるよう防災レジリエンス（予測力・予防力・対応力）を高めるとともに、首都圏での災害発生時のバックアップ機能構築にも取り組む。

具体的活動
- 34 強靭な防災・減災・感染症対策機能を有する地域の実現と国家バックアップ機能の構築（住民の安心・安全）
- 35 デジタルガバメントモデル構築

ACTION PLAN

中期事業計画2021～2023年度

「九州将来ビジョン2030」実現に向けた私たちのアクション

策定の考え方

「九州将来ビジョン2030」の「ありたい姿」実現に向けて、九経連は自身の役割やビジョンのそれぞれの課題の関連性に基づき、今後3カ年ごとに中期事業計画を策定して着実に活動していきます。

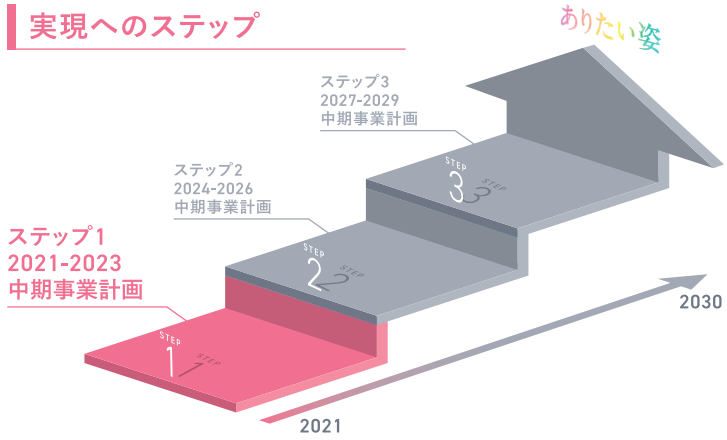
第1ステップとなる2021～2023年度の3年間は、「ありたい姿」実現に向けた重要度や緊急度に鑑み、九州のポテンシャルを活かして、新たな価値創出やコミュニティ形成を優先して目指していきます。

九経連の役割

九州経済発展のための
戦略的産業の成長促進に向けた
リーダーシップの発揮

全会員の成長のための
取り組み促進に向けた
ガバナンス（統治）機能の発揮

実現へのステップ



私たちのアクション（中期事業計画 2021～2023年度）

■基本方針　“九州から日本を動かす”新たな価値の創出

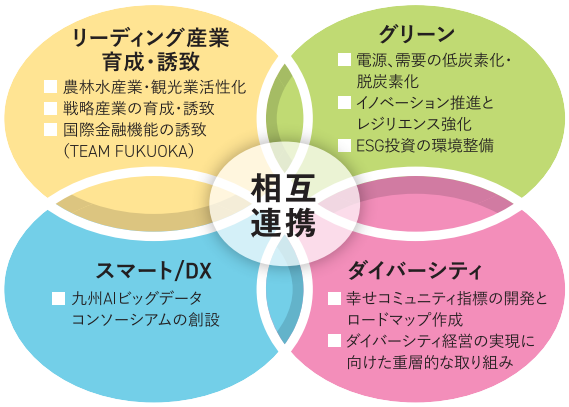
■取り組み戦略と私たちのアクション

戦略1　地域共創 with コロナ

九経連スマイルプロジェクトの継続展開
- 農林水産業・観光業・中小企業の復興支援加速化
- ニューノーマルへの対応に伴う課題解決支援

九州将来ビジョン

戦略2　ありたい姿実現に向けたチャレンジ



主なKPI
- 2023年ツール・ド・九州（仮称）の開催
- 九州の港等からの一次産品・食品輸出額 1,800億円
- 九州AIビッグデータコンソーシアム創設
- 幸せコミュニティ指標の開発・浸透
- VC投資額200億円
- 新たな広域連携の枠組み策定
- 九州とRCEP参加国との貿易額（輸出・輸入合計）6.4兆円

戦略3　みらいへの投資（基盤整備）
- 域内連携による「KYUSHUイノベーションエコシステム」構築
- 分散型・広域連携促進（レジリエンス対応含む）

策定の思い

九州将来ビジョン検討特別委員会

委員長
金子達也
トヨタ自動車九州㈱　取締役会長（九経連　副会長）



本ビジョンの基軸となるのは経済の成長と生産性向上ですが、併せて心の豊かさを成長につなぐ「幸せコミュニティ」を目指します。そして両者の実現を可能にするインフラ整備や、解決手段としてのDXの活用など、九州全体で連携し構造的な改革を進めます。九州の強みを活かし、未来を拓く取り組みを推進しましょう。

副委員長
石坂淳子
㈱ひよ子　代表取締役（九経連　理事）



九州の発展と心の豊かさを軸に、多岐にわたる考慮の結果出来上がった将来ビジョンです。これらのビジョン実現に向けての対応機能を図り、課題解決に向けての監視機能を備え、実践していくことで、九州に暮らす皆々が、共生・共感・共創を実感できると考えます。

九州将来ビジョン検討WG

座長
谷口博文
筑紫女学園大学　教授



大変革の時代、常に一歩先を行く九州でありたい。そんな思いをこめて「ありたい姿」を議論しました。経済成長だけでなく「幸せ」「自立」が重要なキーワードです。従来の経済団体の提言や報告書では扱われることのなかった、人の生き方や心の豊かさにも正面から向き合いました。このビジョン自体がエポックメイキングな役割を果たすことができれば嬉しい限りです。

検討メンバー

2021年5月現在
※事務局以外50音順

九州将来ビジョン検討特別委員会

委員長	金子達也　トヨタ自動車九州㈱　取締役会長
副委員長	石坂淳子　㈱ひよ子　代表取締役
委　員	池上恭子　熊本学園大学　商学部　教授
	石丸修平　福岡地域戦略推進協議会　事務局長
	岩﨑　亨　TOTO㈱　上席執行役員　グローバル事業推進本部長
	嘉藤晃玉　㈱北九州銀行　取締役頭取
	髙木直人　(公財)九州経済調査協会　理事長
	田中　渉　九州旅客鉄道㈱　執行役員　長崎支社長
	谷口博文　筑紫女学園大学　教授
	豊馬　誠　九州電力㈱　代表取締役副社長執行役員　コーポレート戦略部門長
	成底勇人　沖縄電力㈱　常務取締役
	林　秀之　㈱福岡銀行　取締役常務執行役員
	林田浩一　西日本鉄道㈱　代表取締役社長執行役員
	原田　聡　トヨタ自動車九州㈱　経営企画本部長
	米良充典　米良電機産業㈱　代表取締役社長

九州将来ビジョン検討WG

座　長	谷口博文　筑紫女学園大学　教授
学識経験者	亀山嘉大　佐賀大学　経済学部教授
	原口　唯　㈱YOUI　代表取締役
	山下永子　九州産業大学　地域共創学部教授
	與倉　豊　九州大学　大学院経済学研究院 准教授
九州経済連合会	(リーダー)専務理事　長尾成美
	(サブリーダー)常務理事　平井彰
	青松果穂　上田浩貴　久保文一　崔恵源　三木孔
	森内勇貴　渡辺満生(2021年3月末まで)
事務局	筑島修三　岡俊成　濵口比呂光　伊豫田未希

一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通2丁目1-82（電気ビル共創館6階）
TEL 092-761-4261　FAX 092-724-2102
E-Mail　info@kyukeiren.or.jp